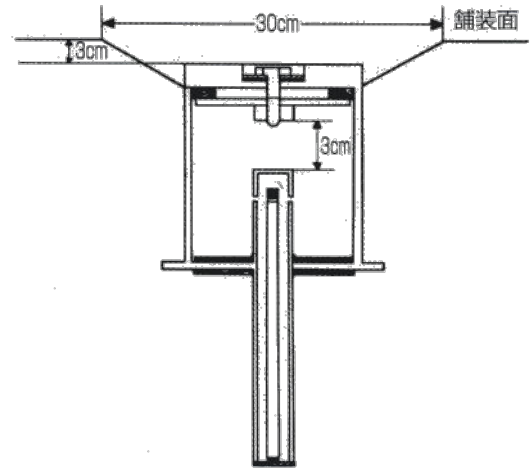


## メチレンブルー土壌凍結深度計の埋設方法①（例）

### ■土壌凍結深度計の埋設手順例（舗装面でマンホール SMB-MH を使用した場合）

- ① 埋設箇所の設定をします。
- ② 舗装の断面構成を確認します。
- ③ アスファルト合材及び安定処理面の掘削を行います。
- ④ 鉄棒を砕石砂利路盤に打ち込みます。
- ⑤ 鉄棒を抜き取ります。
- ⑥ 凍結深度計ガイド（外管）の埋設をします。  
鉄棒を抜き取ったあと凍結深度計ガイド（外管）を入れるときに、砂利等が穴の中に落ちて 1 回で所定の深さまで入らないことがあります。そのときは④と⑤の操作を繰り返します
- ⑦ マンホールの設置を行います。  
マンホール設置のとき、凍結深度計ガイド（外管）の頭がマンホール（蓋をとってある状態）頭部より **6.5～7.5 cm**あるようにします。  
また、マンホールの頭部は路面下 **3.5～4.5 cm**のところにあるようにします。  
なお、マンホールとそこにあるゴム板がガイド（外管）とよく密着するようにします。  
（密着していないとマンホール下部より水が浸入することがあります）
- ⑧ マンホールの底板上面に接着剤を塗り、再度ゴム板にガイド（外管）を通してゴム板を底板と接着させます。  
これで地下水がマンホール内に浸入するのを防ぐことができます。  
（接着剤は鉄とゴムの接着可能なものを使用します）
- ⑨ 凍結深度計（内管）を凍結深度計ガイド（外管）に入れます。
- ⑩ マンホールの蓋をして、蓋に付いているボルトをレンチでしっかり締めます。  
これで表面水がマンホール内に浸入してくるのを防ぐことができます。  
（蓋をしたあとの路面から蓋までの距離は **2～3 cm**にします）
- ⑪ 合材の埋戻しをします。  
なお、マンホールと路面とのすりつけは、滑らかになるようにします。
- ⑫ 埋設箇所を正確に測定、記録をします。



### 埋設と測定に関する必要事項

1. 埋設箇所の交通整理
2. マンホール埋設箇所の掘削
3. マンホールを設置した後の合材の埋め戻し
4. 冬季間凍結深度計埋設箇所近辺の除雪（半径 5 m）
5. 凍結深度測定（例：1 月のはじめから 10 日おき）

※舗装面ではない車両等が往来しない地盤に設置する場合は、マンホール SMB-MH を特に必要としないことがあります。この場合は、上記説明文の舗装面処理とマンホールに関する部分を省略してお読みください。（埋設方法②に例を示します）



各種計測システムの販売・サービス  
エス・シー・ビー

〒063-0061 札幌市西区西町北 14 丁目 3 番 11 号  
TEL/FAX 011-663-6753  
E-mail: scb\_tsuji@kna.biglobe.ne.jp  
URL : <http://www7a.biglobe.ne.jp/~SCB/>